

## 保存用DCP、DSMのデジタル記録票における推奨項目名と表記例

	推奨項目名	推奨表記例
1	会社名	製作社名(作品の権利者)と発注元社名(プロダクションなど)の併記が望ましい。 <製作社名/発注元社名>
2	タイトル	<作品名>
3	作品時間	秒数まで記載が望ましい。 <〇時間〇分〇秒>
4	タイプ・バージョン	DSM、保存用DCPなどの表示。 <DSM ・ ・DCP など>
5	作業日	当該メディアが作成された年月日。 <〇年〇月〇日>
6	公開日	作品の公開日(放送日)。 <〇年〇月〇日>
7	フレームレート	タイムコードがある場合はドロップ、ノンドロップを併記する。 <・24.00fps ・23.98fps ・29.97fps ・59.94fps ・DF ・NDF など>
8	ファイルサイズ	当該メディアに収録されている総データ量 <・OTB ・OGB ・OMB>
9	ファイルシステム	LTOの場合 <・LTO-6/LTFS ・LTO-6/TAR など> HDDの場合 <・exFAT ・NTFS ・MacOS ・Linux など>
10	ファイル形式	DSMの場合 <・DPX(10bit Log) ・TIFF(16bit Linear) ・ProRes HQ(8bit Linear) など> 保存用DCPの場合 <・JPEG2000 ・Interop ・SMPTE など>
11	暗号化	保存用DCPの場合のみ表記 DSMの場合は不要 <・暗号化あり ・暗号化なし>
12	カラースペース /色温度/ガンマ	制作時の視環境を表記。 <・BT.709(Rec.709) ・DCI P3 ・DCI X'Y'Z' ・BT.2020 など / ・D65(6500K) ・D93 (9300K) など / ・2.2 ・2.4 ・2.6 など >
13	解像度	画素数と呼称(2Kなど)の併記が望ましい。 <・1998×1080(2K) ・2048×1080(2K)、・3840×2160(4K) ・4096×2160(4K) ・1920×1080(HD) など>
14	上映画郭	比率と呼称(ピスタなど)の併記が望ましい。 <・1.85:1(ピスタ) ・2.35:1(シネスコ) / ・1.66:1(ヨーロッパピスタ) ・16:9(HD) など>
15	音声フォーマット	音声同梱の場合の表記例。 <・2ch ・5.1ch ・7.1ch ・ドルビーアトモス など>
16	音声ファイル形式	音声同梱の場合の表記例 サンプル周波数、ビット数の併記が望ましい。 <・wav(48kHz 16bit) ・wav(96kHz 24bit) など>
17	ファイル名	ファイル名およびフォルダ階層をできるだけ詳細に記述。
18	備考	その他の記載項目例 ・同梱ファイルの情報(例:LUT、字幕データ、白素材の有無など) ・巻別、巻つなぎ編集済などの情報 ・ソース情報(例:D2テープからのHDアップコンバートなど)
19	作業担当社連絡先	当該メディアを作成したポスプロの連絡先。 <・会社名 ・住所 ・電話番号 など>
<p><b>【目的】</b> あくまで推奨の表記例なので強制力はないが、ポスプロによる表記のばらつきを最小限にし、ポスプロ以外の担当者が見てもわかりやすく、情報が正確に伝わることを目的とする。</p>		